



## 2016年12月期 第1四半期決算説明資料

2016年5月9日

株式会社ツバキ・ナカシマ

# 免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます。)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

本プレゼンテーション資料で使用された財務情報は、別途明記する場合を除き、国際会計基準審議会により策定された国際財務報告基準(IFRS)に基づき作成されております。



# 2016年12月期 第1四半期実績



- 1Q業績は想定通り。マクロ影響は前年比マイナス。底打感あり
- 戦略的な取り組みによる成長が実現
- 為替は足元想定より円高なもの、後半円安想定で前提レートへ収束を見込む。
- 2Q以降は対前年同期よりプラスへ向かう見込み(業績見通し据え置き)

# 2016年12月期1Q 連結業績



(百万円)

	FY2015 1Q	FY2016 1Q		
	実績	実績	前年同期増減	前年同期比
売上収益	9,896	8,939	Δ957	Δ9.7%
営業利益	1,965	1,627	Δ338	Δ17.2%
(参考)調整後営業利益 <sup>(※2)</sup>	1,977	1,627	Δ350	Δ17.7%
EBITDA	2,410	2,031	Δ379	Δ15.7%
(参考)調整後EBITDA <sup>(※2)</sup>	2,422	2,031	Δ391	Δ16.1%
当期(四半期)利益 <sup>(※1)</sup>	1,507	963	Δ544	Δ36.1%
(参考)調整後当期(四半期)利益 <sup>(※3)</sup>	1,326	1,165	Δ161	Δ12.1%
調整後基本的1株当たり 当期(四半期)利益(円) <sup>(※2)</sup>	33.80	29.28	Δ4.52	Δ13.4%

(※1)”当期(四半期)利益”は、本項以降、“親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益”を記載しております

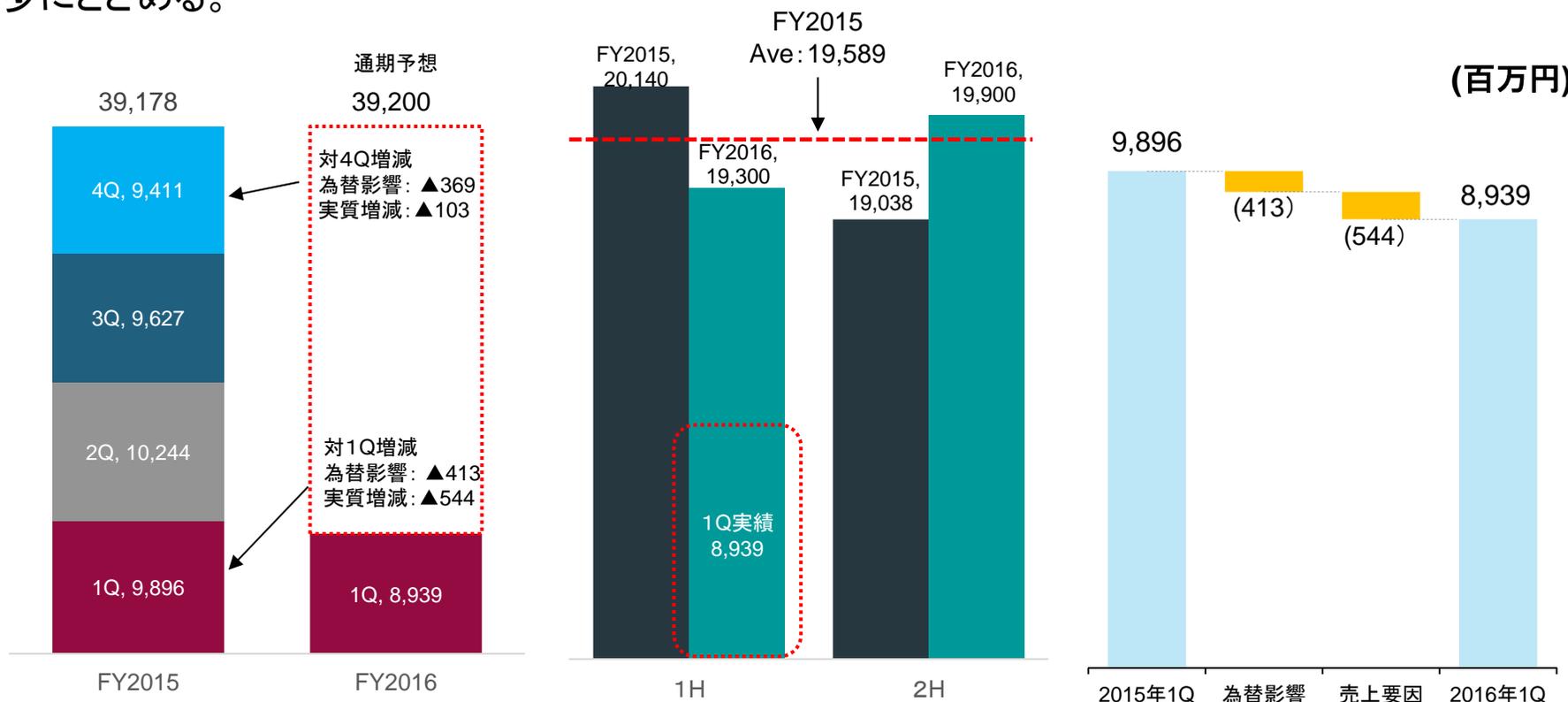
(※2) 上場関連費用等(2015年のみ発生)の一時的要因費用を調整した額を記載しております。

(※3) 調整後当期(四半期)利益は、上場関連費用(2015年のみ発生)、為替差損益等の一時的要因を調整した額を記載しております。



# 主要業績指標の推移-1 売上収益

工作機械需要の減少や為替影響があるものの、戦略的な取り組みが順調に進捗し最小限の売上減少にとどめる。



対2015年1Qでは、実質増減▲5.5%であるものの、直前の対2015年4Qでは実質増減▲1.1%と下げ止まり感。

- 2015年は上期好調、下期減速
- 2016年は下期回復を想定

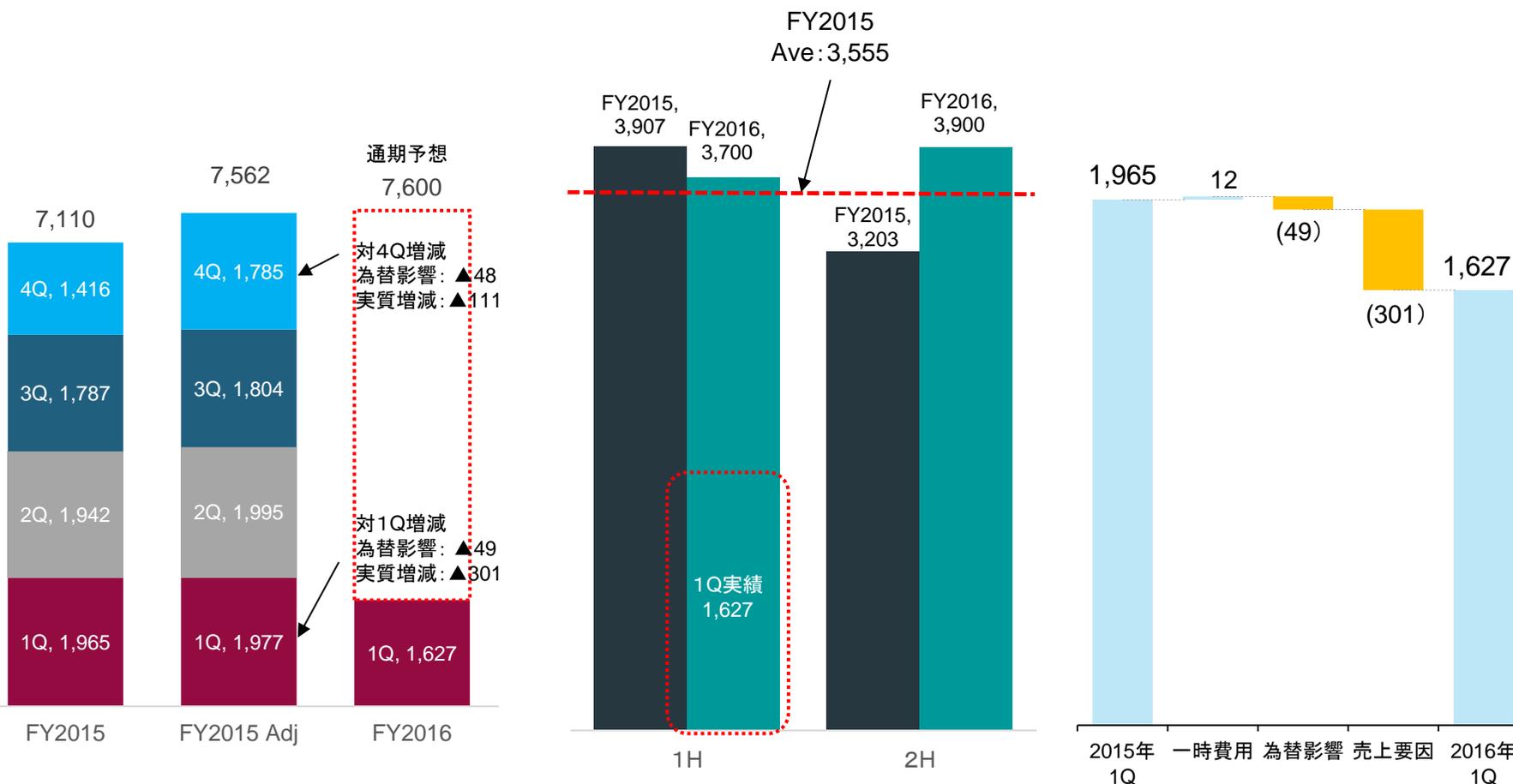
- 工作機械需要減少により、リニア ▲2.5%、ボール▲6.0%
  - 在庫調整(日本)▲2.5%
  - 戦略取り組み+4.3%
  - 自動車マクロ影響+1.1%
- ※ 自社推計値による



# 主要業績指標の推移-2 営業利益

工作機械需要の減少により、2016年1Qの売上営業利益率は18.2%にとどまる。

(百万円)

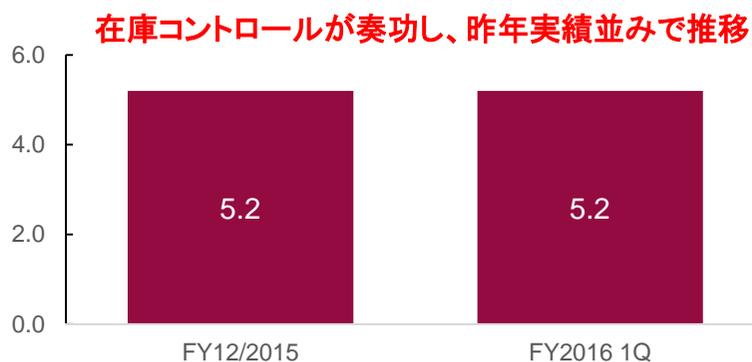


(※)FY2015 Adj: 上場関連費用等の一時的要因452百万円を調整しております。

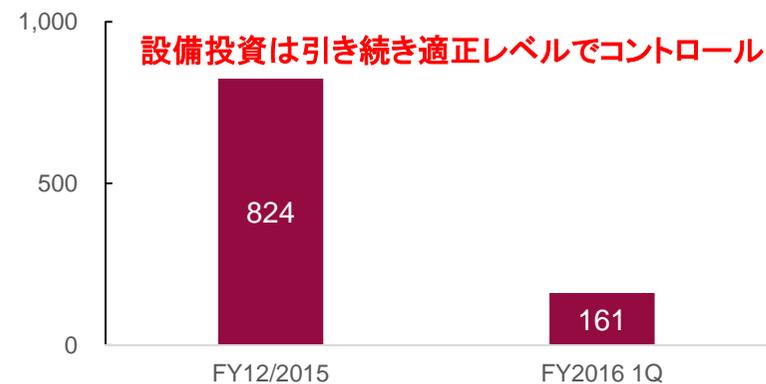


# 主要業績指標の推移-3

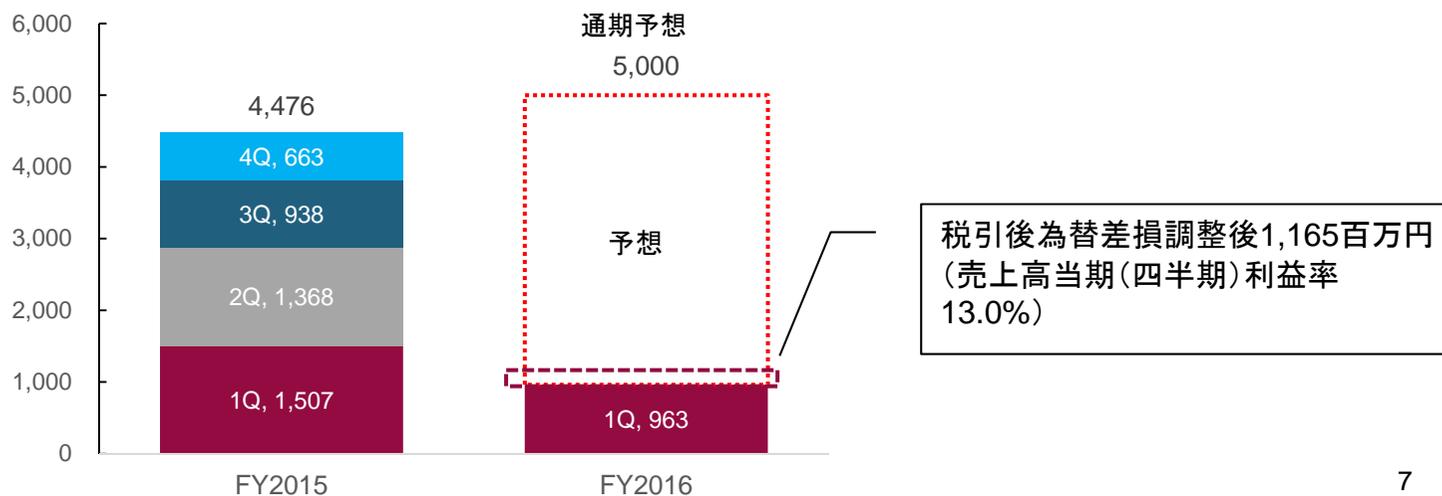
### 棚卸資産回転月数 (月)



### 設備投資額 (百万円)



### 当期(四半期)利益(百万円)



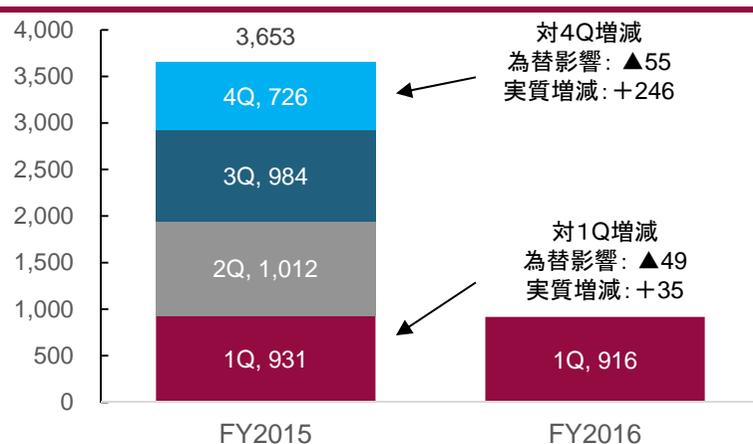


# 戦略的な取り組みの進捗 2015-2016

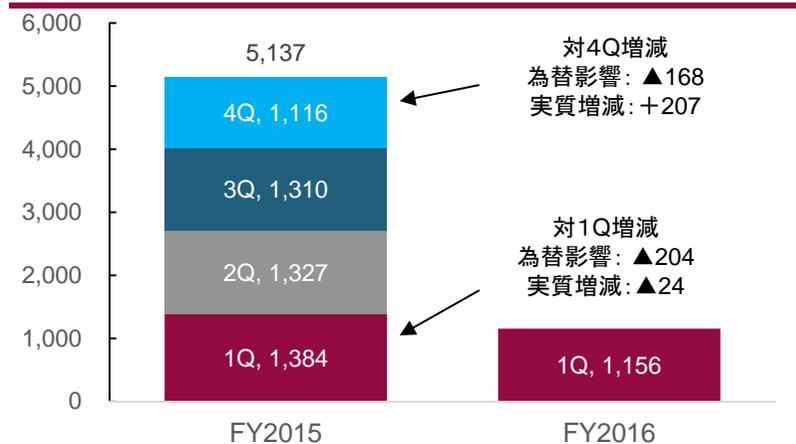
マクロ影響(特に工作機械需要減少)を受けつつも順調に進捗している。

(百万円)

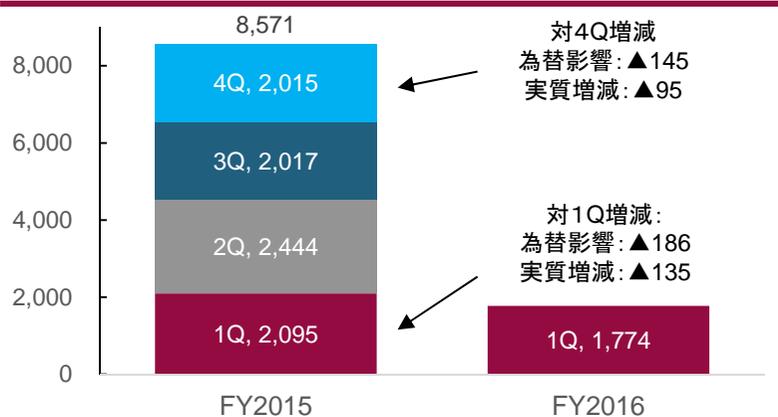
## 海外のお客様への売上拡大



## セラミックボールの拡販



## アジア市場での成長



## 新領域の開拓

